

やさしさ ふれあい
支え合いのまちづくり

～安心できるまち 磐田～

概要版

第4次磐田市地域福祉計画 第4次磐田市地域福祉活動計画

令和5年度～令和8年度

磐田市・磐田市社会福祉協議会

地域福祉を担う人づくり

▶ 今後の方向性

地域における福祉活動を推進するためには、まず一人ひとりが福祉について関心をもち、正しく理解した上で、地域活動やボランティアなどの担い手の輪を広げていくことが必要です。

地域福祉に関する広報活動や学習機会を充実するとともに、ボランティアに関心のある市民が気軽に参加できるきっかけや仕組みづくりに取り組むことで、市民一人ひとりの社会参加を促進し、将来の地域福祉を担う人づくりを進めます。

現状と課題

- ・福祉を学ぶ機会の充実や、福祉にかかる情報発信が求められている。また、障がいのある方や認知症の方などが偏見を持たれない社会が求められている。
- ・高齢者が生きがいをもって社会参加することや、高齢者の一人ひとりが元気で過ごすことが求められている。
- ・ボランティア団体、高齢者サロンなど地域で活動している多くの団体で担い手の高齢化や新たな担い手の確保が難しい状況にあり、運営の継続が難しくなっている。

▶ 市・市社協の主な取組み・活動

市	☆福祉を学ぶ機会の提供 ☆社会参加の促進
社協	☆地域の多様な機関との協働による福祉教育の充実 ☆広報・啓発活動の充実 ☆心の支援・ひきこもり支援
市社協	☆心のバリアフリーの普及・推進 ☆生きがいづくり支援 ☆ボランティアの育成と確保 ☆地域福祉の担い手づくり



▲小学校での福祉教育プログラム(シニア体験の様子)
人材養成講座修了者による福祉教育のサポート

▶ 目標指標

指標	現状(R3)	目標値(R8)	考え方
ボランティア登録制度への登録者数	個人 58人 団体 15団体	個人 80人 団体 30団体	ボランティア活動の担い手を確保するため、ボランティア登録者を増やす。



市民・地域の参加、取組事例



地域福祉あれこれ

いわた多文化防災の会 (^{あい}i - ^{たぼ}TABO)

市内に暮らす約 9,200 人の外国人の皆さんは、災害時に情報が入りにくく困難な状況に陥りやすくなるかもしれません。多様な言葉や生活習慣・文化があることを前提に、外国人も同じ地域で暮らす住民として、共に防災活動を行うことを「多文化防災」と呼びます。「いわた多文化防災の会」は、磐田国際交流協会のメンバーで、日本人も外国人も一緒に活動するボランティアグループです。日本語が苦手な外国人にも分かる「やさしい日本語」の啓発、市内の防災訓練への外国人の参加を促す活動などを行っています。「やさしい日本語」を使うと、外国人だけでなく、子どもや高齢者、障がいのある方にも分かりやすくなります。「市内の外国人には、若くて元気な方が大勢います。日頃からあいさつを交わし、草刈りやお祭りで交流していれば、救助活動や避難所の運営時に彼らも支援者となって活躍し、共に助け合えることができるのではないのでしょうか。」と会員の方は話してくれました。



市民・地域が取り組むこと

- 一人ひとりが互いを思いやり、尊重することで偏見や差別をなくしましょう。
- 福祉についての情報を入手しましょう。
- 老人クラブ、サロン、いきいき百歳体操などに参加して、介護予防、認知症予防を推進するとともに、サロン活動にも積極的に参加しましょう。
- 地域や行政が開催する生涯学習の場に参加してみましょう。
- 「自分にもできそう」、「やってみたい」と思えるボランティアを見つけて参加してみましょう。
- ボランティア活動の後継者を育成していきましょう。

ふれあい、支え合い、助け

▶ 今後の方向性

今後は、行政・専門機関による既存のサービスだけでなく、地域のことを最も理解している住民自身が住民主体のまちづくりを進めることが重要です。

地域での孤立を防ぎ、困った時に助け合うことができるよう、さまざまな世代や主体とのふれあい・交流できる場を通して地域のつながりを広げるとともに、お互いに支え合い・助け合いが育まれる環境づくりを進めます。

さらに、多様化・複雑化する福祉ニーズに応えるために、民生委員・児童委員をはじめとした市民、福祉関係団体、事業者、行政などとの連携・協力を推進することで、地域での見守り体制づくりや、支え合いのネットワークづくりを強化します。

現状と課題

- ・高齢の親の介護やコロナ禍などで、外出機会や人とふれあう機会が減り、人との交流や居場所を求めている高齢者が増えている。
- ・独居高齢者や他の地域住民との関係が少なくなりがちな高齢者や障がい者の見守りが課題となっている。
- ・近所づきあいを大切にし、地域の事業者や施設と連携して、地域の支え合いを進めることが求められている。一方で、近所づきあいや自治会活動が煩わしいと感じている人も多く見受けられる。

▶ 市・市社協の主な取組み・活動

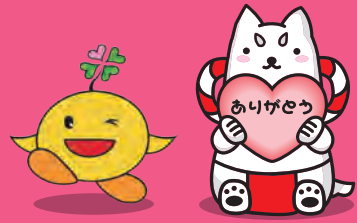
市	<ul style="list-style-type: none"> ☆通いの場(居場所づくり)の支援 ☆自殺を防ぐ見守り体制の推進 ☆災害時要配慮者支援体制の整備 ☆地域の防犯活動への支援 ☆孤立しがちな高齢者などの見守り体制の構築
社協	<ul style="list-style-type: none"> ☆地域福祉活動・ボランティア活動拠点の活用促進 ☆地域内交流に参加できる機会づくり ☆災害ボランティア活動支援体制の整備
市・社協	☆見守り活動の推進



▲災害ボランティアの活動
令和4年台風15号被害へ対応するボランティアへの支援

▶ 目標指標

指標	現状(R3)	目標値(R8)	考え方
避難行動要支援者 個別避難計画作成率	81.5%	100%	個別避難計画作成により、避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を確保する。



市民・地域の参加、取組事例



地域福祉あれこれ 見附宿いっぷく処

ボランティアが作るお弁当やお惣菜などを安価で提供しています。高齢者や子ども同士と一緒に食事や会話などを通して、ふれあいや見守りをする地域の居場所です。平成 29 年から、65 歳以上の方を対象にした「シルバー食堂」を本格的に開始し、その後、主に小中学生を対象とした「こども食堂」も展開。栄養バランスの取れた食事を提供しています。食とスポーツを通じて市民の健康促進や経済の活性化につなげるプロジェクトのひとつ「ジュビロ飯」にも参加し、認定メニューの「天ぷら煮物定食」を提供しています。代表の方は、「地域の皆さんによる食材提供など、多くの支援のおかげで成り立っています。多くの人に知ってもらい、利用していただきたい。」と話してくれました。また、利用者は、「美味しいから来ています。こうした居場所があることはありがたいです。」と話してくれました。



市民・地域が取り組むこと

- 交流センターなどの公共施設のほかにも公会堂などを活用しましょう。
- サロン活動やこども食堂などの活動を広めていきましょう。
- 普段から見守り、声かけ(あいさつ)をしましょう。
- 近所の結びつきを活性化し、支援が必要な方への見守り体制を進めましょう。
- 地域の住民と事業所、専門職の交流を深め、連携づくりを進めましょう。

自立した生活が送れる支援

▶ 今後の方向性

生活課題の多様化・複雑化に伴い、制度の狭間の問題が顕在化する中、それらの福祉課題を解決するためには、あらゆる課題を受け止め、解決につなぐための仕組みづくりが必要です。各種相談機関や関係機関が相互に連携し、包括的な支援を行う体制整備を進めます。

また、若者や子どもたち、世代や性別、国籍を超えて、誰もが人格や意思を尊重され、自分らしく地域で生活を送ることができるよう、一人ひとりの権利を守る施策の推進を図ります。

現状と課題

- ・ 市民アンケートによると、相談窓口の充実が求められている。
- ・ 市民アンケートによると、生活上の悩みや不安を相談できるのは、家族や友人が最も多く、専門機関の相談窓口の機能強化と合わせて、市民に相談窓口や専門職等の周知を図る必要がある。
- ・ 障害福祉サービスや、高齢者の在宅福祉サービスの充実が求められている。
- ・ 少子化や家庭環境の変化により、育児への負担や不安を感じている人が増えており、安心して出産・子育てができる環境整備が求められている。

▶ 市・市社協の主な取り組み・活動

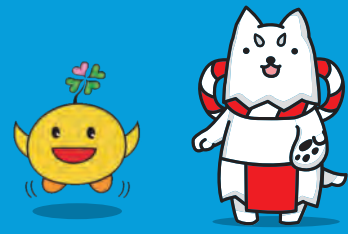
市	<ul style="list-style-type: none"> ☆相談支援体制の強化 ☆重層的な支援体制の整備 ☆高齢者や障がい者の日常生活支援の充実 ☆生活困窮者に対する自立支援 ☆子育てサービスの充実 ☆外出・移動手段の充実と確保
社協	<ul style="list-style-type: none"> ☆包括的相談支援体制・重層的な支援体制に基づく事業 ☆相談機能の充実 ☆福祉サービス利用援助の推進 ☆地域と連携した子育て支援
市・社協	<ul style="list-style-type: none"> ☆成年後見制度の利用促進



▲デマンド型乗合タクシーの利用促進

▶ 目標指標

指標	現状 (R3)	目標値 (R8)	考え方
デマンド型乗合 タクシー利用者数	36,536人	45,000人	日常生活に必要な移動手段の充実と確保を進める。



市民・地域の参加、取組事例



地域福祉あれこれ

南御厨地域づくり協議会 公共交通の未来を考える会

南御厨地域づくり協議会は、高齢者の買い物や通院の移動手段を確保するため、住民ボランティアによる移動支援の立ち上げに乗り出しました。住民主体で地域の交通弱者の移動ニーズに対応する仕組みづくりを目指します。南御厨地区は市内でも高齢化率が高く、高齢者だけの世帯が多い一方、路線バスが通っていません。市のデマンドタクシーだけではカバーできない要望をくみ取り、だれもが生き生きと暮らせる地域づくりにつなげようと、令和5年度中の運行開始を目指して準備しています。地域づくり協議会の皆さんは、「困っている高齢者をみんなで助け合う仕組みにしていきたい」と話してくれました。



市民・地域が取り組むこと

- 一人で悩まず市の相談窓口や専門機関に相談しましょう。
- 家族や友達をはじめ、地域における身近な人の悩み、困りごとを察知し、相談相手になるようにしましょう。
- どんな場所でもどのような生活を送りたいかなど、将来の生活を想像することで、自立して安心した生活を送れるような備えをしましょう。
- 成年後見制度や日常生活自立支援事業など、権利を守るための制度について、その内容や目的を理解し、必要に応じて利用できるようにしましょう。
- ゴミ出しなど困っている人がいたら、手伝ってあげましょう。
- 買い物に行くのが困難な人がいたら、それを助ける仕組みを考えてみましょう。

やさしさ ふれあい 支え合いのまちづくり ～安心できるまち 磐田～

地域福祉とは

地域福祉とは、誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けられるように、人と人がつながり、支え合い、助け合うための取り組みです。

人口減少、少子高齢化の進行、単身高齢世帯・高齢者のみ世帯及び共働き世帯の増加等により、介護や見守り、子育ての支援がこれまで以上に必要となる一方、核家族化、ひとり親世帯の増加、近所付き合いの希薄化等により、家庭及び地域の支援力が低下しています。

また、8050問題やダブルケア、ヤングケアラー等、個人や世帯単位で複数分野の課題を抱えており、分野別に組み立てられた縦割りの既存制度では、対応が難しいケースも顕在化してきています。



このような課題を解決するためには、市や社会福祉協議会の取り組みだけでなく、例えば地域における見守り活動など、地域での取り組みが必要になります。

第4次磐田市地域福祉計画・第4次磐田市地域福祉活動計画

発行年月：令和5年3月

発行：磐田市健康福祉部福祉課・社会福祉法人磐田市社会福祉協議会

〒438-0077 静岡県磐田市国府台57番地7 i プラザ（総合健康福祉会館）内

Tel 0538-37-4814 Fax 0538-36-1635（磐田市健康福祉部福祉課）

Tel 0538-37-4824 Fax 0538-37-4866（磐田市社会福祉協議会）